届け 世界の果てまでも

令和４年４月２２日　Ｎｏ．５　文責　校長　飯久保一男

親や教師が見本となる

子どもの教育・指導・しつけにおいて，親や教師の「粘り強く」「継続した」指導が欠かせません。一貫性も必要です。そして，そこには，見本となる親や教師の姿が大切になります。

こんなコラムを見つけました。茗荷村※1の創設者，田村一二 氏の言葉です。

（わかりやすくするために一部加除修正をしています。）

私には６人の息子がいます。彼らがまだ小さいとき，彼らはどうしても履物をきちんとそろえられませんでした。叱ると，そのときはそろえますが，すぐに元に戻ってしまうのです。

それで，私が尊敬する糸賀一雄※2先生にお尋ねしました。

本校１年生が使うトイレです。
トイレのサンダルが
きれいにそろっています

私「しつけとはどういうことですか」

先生「自覚者が，し続けることだ」

私「自覚者といいますと？」

先生「それは君じゃないか。君がやる必要があると認めているんだろう？
それなら君がし続けることだ」

私「息子は？」

先生「放っておけばいい」

ということで，家内も自覚者の１人に引っ張り込みまして，実行しました。

実際にやってみると，親が履物をそろえ直している目の前で，息子がバンバン脱ぎ捨てて上がっていきました。「おのれ！」とも思いました。しかし，糸賀先生が放っておけとおっしゃったのですから，仕方ありません。私は叱ることもできず，腹の中で，「くそったれめ！」と思いながらも，自分の子どもであることを忘れて，履物をそろえ続けました。

すると不思議なことに，ひたすらそろえ続けているうちに，だんだん息子のことも意識の中から消えていって，そのうちに履物を並べるのが面白くなってきたのです。外出から帰ってきても，もう無意識のうちに，「さあ，きれいに並べてやるぞ」と楽しみにしている自分に気がつきました。さらに続けていると，そういう心の動きさえも忘れてしまい，ただただ履物を並べるのが趣味というか，楽しみになってしまったのです。

それで，はっと気がついたら，なんと息子どもがちゃんと履物を並べて脱ぐようになっておりました。孔子の言葉に，「これを楽しむ者に如かず」 というのがありますが，私や家内が履物並べを楽しみ始めたとき，息子はちゃんとついてきたわけです。

私ごとで恐縮ですが，ここに教育の大事なポイントの一つがあると思います。口先だけで人に，「こら，やらんかい」とやいやい言うだけでは，誰もついてきません。自分が楽しんでこそ，人もついてくるんだという人生観を，私は履物並べから学んだ次第です。

※１　茗荷村　…　社会的弱者に対して，生活・教育・福祉等に関する事業に取り組んでいるＮＰＯ団体です。
※２　糸賀一雄 氏　…　戦後日本の障害者福祉を切り開いた第一人者として知られ，「社会福祉の父」とも呼ばれます。

ほぼすべての学校で「あいさつをしよう」ということは目標やテーマになっていると思います。あいさつをする子に育てるために必要なことの最初にあげられることは「親があいさつをしている」ことです。私は，朝，駐在所（ウエルシア）のところに出て，子どもたちとあいさつを交わしています。私に気持ちのよいあいさつをしてくれる子の家庭は「きっと気持ちのよいあいさつをしている家庭なんだろうなぁ」と思います。

左は

〇本校の学校教育目標

「自分を大切にし，
他者を大切にする」
子どもの育成

〇今年度の学校経営方針

〇それをまとめたグランドデザイン

を子ども用に分かりやすく，また，いくつもある「めあて」の中から，ポイントを絞って整理したものです。各教室に掲示してあります。

「今年のめあて」のその３は

あたり前にできると『かっこいい』

です。その具体例として

・あいさつ 返事 感謝の言葉（ありがとう）
・整列や移動を無言でまっすぐ
・そうじを無言ですみずみまで
・整理・整頓（はきもの，ロッカー，机，いす）

をあげています。これらのことが

ふつうにできると，かっこいい

としてあります。

あいさつや返事をすること，整理・整頓をすることなどには，家庭でも意識して取り組んでいただきたいと思います。集団で過ごす学校の場と個で過ごす家庭の場では違う面もあります。学校は集団で過ごす場ですので「移動は無言で」「整列はまっすぐ」は必要です。「けじめやきまりを守ろう」という点では，時間を守ることなども大切な内容ですが，「あたり前に」「ふつうに」できることとして，上記の具体例をあげています。

前号で書きましたように，家庭と学校が同じ方向で子どもたちを指導・支援していくことで，大きな効果が生まれます。これらのことをご理解いただき，「継続した」「見本になる親」として接していただければと思います。そのためには，裏面の田村氏のコラムのように「自分が楽しむこと」がポイントかもしれません。

子どもたちの見本となれる教職員であるべきことは，４月１日に全教職員で確認をしています。金曜日の終礼の最後に全教職員で声をそろえて「誓いの言葉」を唱えます。毎週，各自で意識しています。

長男は東京で暮らしていますので，車をもつ必要性をあまり感じていないようです。
次男は河口湖の会社に勤め社宅住まいです。親に借金して自分の車をもっています。
私にも妻にも自分の車があります。でも自分で車を洗うことはほとんどありません。
親が全く見本になっていませんが，次男は自宅に戻った週末，洗車を欠かしません。
洗車が楽しいのだそうです。ものぐさな次男でも楽しいことは続けられるようです。